

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	1271201301		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	グループホームワカバ		
所在地	千葉県松戸市南花島4-65-5 阪田マンション2階 (電話) 047-363-3136		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月30日	評価確定日	5月22日

【情報提供票より】(21年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	7階建ての 2階 ~ 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円		その他の経費(月額)	共益費22,050円 理容・おむつ代など実費
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000円)		有りの場合償却の有無	有(償却期間:3年)
食材料費	朝食	550 円	昼食	630 円
	夕食	630 円	おやつ	105 円
	または1日当たり 1,915円			

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	9	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2	名	要介護2	2	名
要介護3	2	名	要介護4	3	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢	平均 81.7 歳	最低 70 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏光陽病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR松戸駅に程近い住宅地にある7階建てマンションの2階部分がグループホームとなっている。玄関には入居者全員の帽子が置いてある。オープンキッチンのある食堂兼居間には木目調の大きな飾り棚が配置されているなど、家庭的で落ち着いた雰囲気が感じられる。管理者と職員間の連携は良く取れており、入居者一人ひとりの状態にきめ細かく対応している。入居者は、職員のサポートにより持てる能力を発揮し、それぞれのペースで生活している様子が見受けられた。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域とのつきあい」については、チャリティ募金を地域住民に呼びかける等、地域での活動の場を広げている。「運営推進会議を活かした取り組み」は運営推進会議で家族から出された意見を検討している。「評価への取り組み」は、事業所として管理者の交代等で職員体制が整わず、改善には至らなかった。この他の項目についても、できることから取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が職員全員に自己評価表を配り、各々の記述を管理者がまとめる形で事業所としての自己評価表を作り上げた。今回の自己評価への取り組みを通じて、日頃のケアを見直す良い機会となった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2月開催の運営推進会議で、出席した家族から、スプリンクラーの設置について要望が出された。これに関して、来年度の松戸市のスプリンクラー設置に関する助成金制度開始に合わせ、法人として設置を検討し始めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7・8)
	「来客者受付ノート」に家族との面談の様子が詳細に記されており、このノートの活用により家族からの意見、苦情等は職員全員が周知し、必要があればスタッフ会議で検討するようにしている。今後の課題として、昨年度も触れたように「家族アンケート」の実施など全家族の意向が、運営に反映される事を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	24時間テレビのチャリティー募金活動を始めて2年目となり、少しずつ募金協力者も増えている。又運営推進会議のメンバーの自治会役員から、「困った時は力になりたい」との申し出も受けている。地元小学生の体験授業の受け入れは入居者にも大変喜ばれた。今後は災害時に備える意味でも、地域住民との具体的な協力体制を築くことが期待される。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「思いやりといたわりの心」を持って入居者の声に耳を傾け、介護サービスの質の向上を計る事を理念に掲げ、地域密着型サービスとしての暖かいホーム作りを目指している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日頃職員の目に触れる場所に「理念」を掲示し、常にその理念を念頭に置きケアに取り組むようにしている。月1回のスタッフミーティングでも理念に触れ、それに添った話し合いをしている。		
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一昨年に続き、24時間テレビのチャリティ募金を地域住民に呼びかけ、少しずつ活動が浸透している。募金協力者には、ホームの入居者手作りの「折り鶴風鈴」を手渡し喜ばれている。また地域の小学生との交流や市民会館での催し物を見物するなどしている。		
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、管理者がまとめた。この取り組みを通して、日頃のケアを見直す事が出来た。外部評価の改善項目の取り組みについては、管理者の交代等で職員体制が整わず、実行することが出来なかった。		平成20年度の外部評価については、事業所として積極的に取り組む姿勢が出来ているので、より良いホームを目指して改善事項への取り組みが期待される。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の開催は2回のみであったが、平成21年度は2ヶ月毎の開催を予定している。前回会議で、出席家族より、スプリンクラーの設置について要望が出された。この件については来年度の松戸市の助成金制度に合わせ、法人として検討する事になった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	松戸市介護相談員が1ヶ月1度来訪し、入居者との面談の様子を専用ノートに詳細に記録してくれるので、ケアに役立てる事が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、一人ひとりの入居者の居室担当者が介護連絡票を作成し、日常の様子を家族に知らせている。写真、小遣い明細書も同封し、特に遠方の家族には写真が喜ばれている。又必要に応じ随時連絡を取り合っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来客者受け付けノートにより、来訪時における家族とのやりとりが細かく記録されており、意見や苦情があれば随時職員で話し合うようにしている。しかし、来訪者以外の家族からの意見等が運営に反映される状況には至っていない。		日頃から家族の意向を汲み取る努力はしているが、今後は家族全員の意見がホームの運営に反映される仕組みがあるとさらに良いと思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としてメモリアル休暇や保育支援制度を設け、職員の働きやすい環境作りに配慮している。馴染みの職員の退職の際は、お別れ会を開き、退職者が手作りのランチマットを入居者一人ひとりにプレゼントしたりした。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として職員採用時に就労規則、認知症・感染症の知識、接遇マナー等について研修を行い、2回の力量評価を行う等新人教育に力を入れている。又、4月からは中堅・ベテラン職員を対象とした法人内研修の、年間計画を立てている。今後は、職員が研修に積極的に参加し、ケア技術の向上につなげることが期待される。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会で管理者の交流がある。松戸市認知症高齢者グループホーム協議会にも今年から入会した。今後は管理者同士から職員同士へと交流を広げて行きたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得した上でサービスを開始できるよう、見学の段階から丁寧に応じている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は心情を職員に打ち明けるなど、信頼関係が築かれており、職員も入居者から学ぶことが多い。日常的な手伝いや行事など、入居者が自主的に参加する事を、職員が支援するという形を目指している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	リビングには、利用者の健康状態、言動など気付いたことをスタッフが誰でも記入できる、「日中記録用紙」が用意されている。これを毎日カードックスの個人情報欄にまとめて記録している。		
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃より入居者の状況や希望など情報の収集に努めている。「改善・要望・提案」ファイルがあり、職員全員が記入でき、情報を共有している。また、「連絡ノート」を用いて、職員間の情報の共有の徹底を心がけている。居室担当者が介護計画書に沿った原案を作り、計画作成担当者及び管理者と協議することにしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月2名分の計画書を見直すペースを目標に、毎月ケアカンファレンス行っている。職員全員からケアカンファレンス用の情報を貰い、その月の対象入居者の計画書の見直しに反映させる仕組みを始めている。状態に変化のある入居者に対しては優先して見直しを行っている。		計画作成担当者がサービス現場の応援業務に追われる状況があり、そのことを当事者職員はよく認識している。計画作成に専念できる時間の捻出について、早急な改善が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や図書館や洋服の買い物など利用者の要望に添う支援をしている。また、地域住民に対してホームへの理解を深めてもらえる様に交流を深めていきたいと考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、基本的に本人及び家族の希望で決めているが、現在は全員ホームの協力病院を主治医にしている。協力病院にない診療科目については、希望の病院に家族または職員が同行して受診している。受診時の状況は、「受診ノート」に記録している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時にホームの方針を説明し、文書「重度化した場合における指針について」及び「看取りに関する指針について」に家族の確認・印を得ている。看取りの実績はない状況である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねる言動をしないように気を付けている。個人情報に関する廃棄書類はその都度シュレッダー処理している。しかし個人ファイルなどの記録が来訪者が通る場所に置かれている。		個人ファイル等を置いているスタッフルームは来訪者が通る所なので、人の目に触れ難くしたり鍵をかけたりするなどの配慮が期待される。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が揃って体操したり、貼り絵をする時間もあるが、一人ひとり自由に過ごす時間もある。字を書く練習をする人、テレビをみている人、おしゃべりをしている人、居室で寝転んでいる人など本人が好きなように過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立メニューには日頃のコミュニケーションで得た好みの情報を取り入れるよう配慮している。米とぎや野菜の下拵え、食器洗いなどを率先して手伝う入居者もいて、職員とともに準備や食事を楽しんでいる。また入居者同士の相性に配慮して席を決めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週4日、希望があれば5日も可能であり、風呂好きな入居者には特に喜ばれている。また安全にも配慮しながら、入浴を楽しんでもらえるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	インゲン豆のすじ取り、お盆拭き、洗濯物のたたみ、食事時に各部屋に声を掛けて知らせてくれるなど、入居者が好きなこと、出来ることの役割を持ってもらえるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周囲の道路は歩道が狭いので、安全に配慮しながら、週3日ほど外出や散歩をしている。散歩先ではおやつを買う楽しみもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	マンションの2階にあることもあり、鍵をかけざるを得ない状況であるが、置物風のセンサーが置いたりして、できるだけ、かけないで済むような方向で努力をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練は行われているが、避難訓練は行われていない。災害時に地域住民の協力を得られるよう、日常的に挨拶をするなど働きかけている。		消防機関の協力を得ながら定期的に避難訓練を実施する事が期待される。また、災害時の対応手順などが文書化され、職員間で周知徹底されるとさらに良いと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立メニュー作成時に栄養バランスにも配慮している。計測はしていないが、塩分とカロリーに特に注意している。毎食事やおやつの時間など一日を通して水分確保ができるよう心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には利用者の笑顔の写真が多く微笑ましい。リビングの壁の一面は全面書棚であり、落ち着いた居心地のよい雰囲気である。対面式のキッチンでは会話が行き交い家庭的である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はみな南向きで明るい。それぞれ好みのもの、使いたれたものを置いて、個性的で本人らしく過ごせる配慮がされている。		